

会議議事録

会議名	平成 30 年度第 2 回福祉分野教育課程編成委員会
開催日時	平成 31 年 2 月 20 日 (水) 10:00~12:00 (2.0h)
場所	本校 1 階会議室
出席者 (敬称略)	<p>① 企業等委員：入野 豊委員 (非営利活動法人大田区介護支援専門員連絡会副理事長)、丸山泰一委員 (社会福祉法人池上長寿園統括事業所長) (計 2 名)</p> <p>② 本校委員：橋本正樹 (校長)、岩上由紀子 (介護福祉科学科長)、熊谷 崇 (介護福祉科教員)、宮下明久 (事務局長) (計 4 名)</p> <p>③ オブザーバー：中嶋純也 (介護福祉科教員)、武石稔弘 (医療秘書科教員) (計 2 名)</p> <p>④ 事務局：松本晋圭、川内靖美</p> <p>⑤ 記録：小田真理子 (参加者合計 11 名)</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>① 事前送付：□資料 1-1：平成 30 年度第 1 回福祉分野教育課程編成委員会議事録案、□資料 2-1：前回委員会以降の主な経過報告、□資料 2-2：平成 30 年度就職状況の中間報告、□2-3：平成 30 年度後期授業アンケートの全体集計、□2-4：株式会社グッドパートナーズ外国人留学生支援奨学金キャリアプラン、□3-1：平成 29 年度生カリキュラムの報告、□3-2：介護福祉事務及び福祉事務管理技能検定の報告、□3-3：第 31 回介護福祉士国家試験受験の報告、□3-4：平成 30 年度介護実習の報告、□4-1：平成 30 年度教員研修計画・実績、□4-2：平成 30 年度教員研修報告書、□4-3：平成 30 年度授業公開における介護福祉科の状況について、□5-1：平成 30・31 年度生カリキュラム、□5-2：介護実習実習日誌について</p> <p>② 当日配付：□「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」について、□外国人介護職の指導担当者講座 (入門編)</p> <p>③ 外部委員配付資料：□平成 30 年度 21 期生ケーススタディ資料、□教育研究第 36 号</p>
委員長	橋本校長
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>入管法の改正によって特定技能制度が新設され、外国人をめぐる状況が大きく変化した。次年度から外国人留学生の本格的な受け入れが始まる。本校では外国人の中でリーダーになれる人材の育成を目指したい。また、介護福祉士の養成以外に、介護の現場にいる方に向けた講座も考えている。皆様には現場の外国人についてのアドバイスも賜りたいとの挨拶が行われた。</p> <p>2. 前回委員会議事録の確認 (説明者：橋本校長)</p> <p>橋本委員長より、前回議事録 (資料 1-1) について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、確認、了承された。</p> <p>3. 平成 30 年度の活動報告等について</p>

(1) 前回委員会以降の主な経過（説明者：宮下事務局長、岩上学科長）

各担当より、資料2に基づき説明の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(2) 平成30年度の活動報告（説明者：熊谷委員）

資料3(3-1~3-4)に基づき以下についての説明の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(ア)平成29年度生カリキュラムの報告

(イ)介護福祉事務及び福祉事務管理技能検定の報告

(ウ)第31回介護福祉士国家試験受験の報告

(エ)平成30年度介護実習の報告

(3)平成30年度の教員研修に関する報告（説明者：岩上学科長）

資料4(4-1~4-3)に基づき以下について説明の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(ア)平成30年度教員研修計画・実績

(イ)平成30年度教員研修報告書

(ウ)平成30年度授業公開における介護福祉科の状況

4. 平成31年度の教育活動と学科運営について（説明者：岩上学科長）

資料5(5-1・5-2)に基づき以下について説明の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。

(ア)平成30-31年度生カリキュラム

(イ)介護実習 実習日誌について

5. 次回日程、その他

事務局より、開催候補日について調整が図られ、7月23日(火)15:00~17:00に決定した。

最後に、橋本校長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼があり、閉会した。

以上

平成 30 年度第 2 回福祉分野教育課程編成委員会の主な討議内容

3. 平成 30 年度の活動報告等について

(1) 前回委員会以降の主な経過

○宮下事務局長、岩上学科長より、担当する項目について、資料 2（別添 2-1～2-4）に基づき平成 30 年度第 1 回委員会以降の経過について以下の報告が行われた。

1. 学生の状況関連

- ・平成 30 年度重点目標の年間退学率 3.5%以下の達成に向け退学防止に取り組んでいる。

2. 平成29年度授業アンケート等の実施状況

	授業アンケート		学校生活に関する調査
実施期間	前期：6/18(月)～22(金)	後期：12/3(月)～7(金)	12/3(月)～14(金)
実施数	・306 科目 7,198 回答	・280 科目、6,867 回答	・591 回答
公表	<ul style="list-style-type: none"> ・後期授業アンケートの全体集計（別添2-3） ・学内：教職員は学内ネットに掲載、学生、兼任講師は図書室に配架 ・学外：平成 30 年度活動の自己評価報告と合わせて本校ホームページに掲載 		<ul style="list-style-type: none"> ・集計完了 ・学内：教職員は学内ネットに掲載、学生、兼任講師は図書室に配架 ・学外：非公表

3. 学生募集関連

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
<input type="checkbox"/> 就職内定者は全員常勤採用か。	<input type="checkbox"/> 全員常勤採用である。
<input type="checkbox"/> 退学者の退学理由は何か。	<input type="checkbox"/> 学校ではなく現場で資格を取りたいという理由である。

(2) 平成 30 年度の活動報告

(ア) 平成 29 年度生カリキュラム

○熊谷委員より、資料 3-1 に基づき以下の説明が行われた。

- ・今年度大幅に見直した科目は「介護福祉事務」のみとなっている。今年度は介護保険制度、介護報酬請求事務に集約し、介護福祉事務管理技能検定の受験を目標としている。

(イ) 介護福祉事務及び福祉事務管理技能検定

○熊谷委員より、資料 3-2 に基づき以下の説明が行われた。

- ・「介護福祉事務」は、在宅介護において、介護福祉士が生活相談員または管理者としてサービス担当者会議に出席する機会が多い。そのようなときに利用者がどのようにサービスを利用しているのか、介護保険制度がどのように活用されているのかを理解していなければ職種間の連携が難しいということから開講した経緯がある。今年度は介護保険制度や介護報酬請求事務に授業内容を集約し、福祉事務管理技能検定は 3 級のみならず 2 級まで範囲を広げている。
- ・出願率は昨年度より向上している。
- ・今年度は、2018 年の介護保険改正によってサービスコード表が全面改訂となったことからテキストが

なかなか届かず、「介護福祉事務」の授業内容にも混乱が生じた。次年度への課題として、引き続き授業内容を見直し、福祉事務管理技能検定については、特に在宅介護における検定取得の意義について理解を浸透させていきたいと考えている。

(ウ) 第 31 回介護福祉士国家試験受験の報告

○熊谷委員より、資料 3-3 に基づき以下の説明が行われた。

- ・資料 24 ページの訂正 試験科目 10 科目群→試験科目 11 科目群 [10]総合問題→ [11] 総合問題
- ・受験対策使用教材は前年どおりである。
- ・全員が出願した。
- ・合格基準は総得点 (125 点) の 60% (75 点)、11 科目群においてすべて得点があった者となっている。
- ・模擬試験の実施は 1 年生 1 回、2 年生 3 回、計 4 回である。
- ・科目別グラフで合計の得点率を見ると順調に点数が上がっているが、かなり個人差がある。

(エ) 平成 30 年度介護実習の報告

○熊谷委員より、資料 3-4 に基づき以下の説明が行われた。

- ・介護実習 I については、今年度から一括して社会福祉法人に依頼している。グループごとにいろいろな施設、事業所で、短いスパンで実習する内容に変更した。
- ・現在、1 年生が第 2 段階の実習中である。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
<input type="checkbox"/> 福祉事務管理技能検定 2 級の全体の合格率はどのくらいか。 <input type="checkbox"/> 問題は難しいか。	<input type="checkbox"/> 全体の受験者数や合格率は発表されていない。 <input type="checkbox"/> 社会福祉学の科目、医学、看護分野に近い部分があるため難しさはある。介護報酬請求の問題は基本がわかっているればそれほど難しくない。

(3) 平成 30 年度の教員研修に関する報告

(ア) 平成 30 年度教員研修計画・実績

○岩上学科長より、資料 4-1・2 に基づき以下の説明が行われた。

- ・今年度は主に留学生に関する研修に参加した。
- ・介養協主催の研修テーマは、留学生や平成 31 年度からの新カリキュラムが中心となった。
- ・発達障害者への教育は今後の課題となっている。この課題にかかわるテーマの研修には引き続き参加していきたい。
- ・認知症サポーター養成講座スキルアップ研修はキャラバンメイトの資格を持っている中嶋教員が参加している。今年度は本校の学生に対しても認知症サポーター養成講座を授業で行っている。
- ・資料にはないが、9 月末に、「介護におけるダイバーシティをどう進めるか」というテーマの公開研究会があり、「留学生から見た日本の介護」について、本校留学生が発表した。
- ・留学生は、ビザの手续、相談相手の不在、文化の違いといった学習以外の困難を抱えているという声が上がっている。本校でも環境面に配慮していく必要があると考えている。

(イ) 平成 30 年度教員研修報告書

○岩上学科長より、資料 4-2 に基づき以下の説明が行われた。

- ・介養協主催研修の概要については、後ほどカリキュラムのところで説明する。

(ウ)平成 30 年度授業公開における介護福祉科の状況について(別添 4-3)

○岩上学科長より、資料 4-3 に基づき以下の説明が行われた。

- ・他学科の授業も参観している。今後の教育に生かしていきたい。

○橋本校長より、以下の補足説明が行われた。

- ・他校と連携して留学生問題に取り組み、信頼できる仕組みづくりによって介護教育の評判を高めていきたい。その準備として研修に積極的に参加している。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
<input type="checkbox"/> 入学予定の外国人は在日外国人か。	<input type="checkbox"/> 留学生として日本語学校に通っている外国人である。
<input type="checkbox"/> 外国人の日本語レベルは N 3 ぐらいか。	<input type="checkbox"/> 本校の受験基準は N 2 としているが、N 2 を取得していなくても日本語学校の N 2 レベルの証明がもらえれば受験可能である。
<input type="checkbox"/> 私どもの現場は、在日外国人は入ってきているが留学生はまだ受け入れていないので、情報交換をさせていただきたい。	<input type="checkbox"/> 講座を実施するにあたって、何ヵ所かの施設に、外国人は働いているか、外国人を受け入れる予定はあるかという内容でヒアリングを行った。既に働いている日本人配偶者がいる外国人はいるが、技能実習生の受け入れは体制をつくってからという返事が多かった。
<input type="checkbox"/> 在日外国人や永住権を持っている外国人にはコミュニティがある。外国人受け入れは、留学生の前に、そのようなコミュニティからという順番もあると思う。	<input type="checkbox"/> 本校の場合は基本的に留学生を対象にしている。
<input type="checkbox"/> 外国人入学予定者の年齢層はどうなっているか。	<input type="checkbox"/> 年齢層は 20 代から 40 代で、20 代が比較的多い。

(4)平成 31 年度の教育活動と学科運営について

(ア)平成 30・31 年度生カリキュラム

○岩上学科長より、資料 5-1 に基づき以下の説明が行われた。

- ・大学では 2019 年度から、専門学校では 2021 年度から新カリキュラムが開始する。
- ・「リスクマネジメント」「生活支援技術Ⅳ」「介護福祉事務」の担当は新任教員を予定している。
- ・介護福祉士養成課程の教育内容の見直しの観点として、実践力が求められている。例えば、時間数が 30 時間から 60 時間以上に増える「人間関係とコミュニケーション」では、現場で働く卒業生をイメージできるような授業が求められている。「社会の理解」は地域の中で利用者を想像できる力、利用者を取り巻く制度を理解する力、「介護の基本」は地域で継続できる介護過程が展開できる能力、介護実践に必要な観察力、判断力、思考力が追加されている。「コミュニケーション技術」では介護を

必要とする人もコミュニケーション技術を学ぶということ、「介護過程」はあらゆるものが集約されている重要な科目で、現場でチームとして介護を実施することをイメージした授業展開をすること、実習では、現場のケアプランと学校で学ぶ介護過程が混乱することがあるので、この点をきちんと教えてほしいという報告があった。認知症については、さまざまな中核症状とか原因疾患、若年性の認知症について、ケアの実際等を踏まえながら現場をイメージできるような教育という難しい課題がある。そのためには教員も現場の情報収集や勉強に努めていく必要がある。現場の方とさらに連携をとりながら教育の場に反映していければと思っている。

(4) 介護実習 実習日誌について

○熊谷教員より、資料5-2に基づき以下の説明が行われた。

- ・介護実習Ⅰは今年度から大幅に変更し、短期間で複数の施設・事業所で実習することにした。当日中に実習日誌を提出することになっている。以前の実習日誌は文章量が多く内容も濃いもので、翌日提出としていたが、厳しい状況があったため簡単な書式に変更した。留学生についても、膨大な文章量に対応できるかという心配があり、今後も簡単な書式にしていくべきか、従来のような書式のほうがいいのかという点で意見交換をさせていただいた経緯がある。前回委員会で、現場の中で日誌が簡略化されるのはいいと思うが、学びの段階では、根拠を考えることが大切だというご指摘をいただいた。その点を踏まえて、現在1年生22期生の介護実習においては、ケアの個別性や理解を深めることに重点を置いた。第2、第3段階は従来どおりの書式、短期間の介護実習Ⅰ、在宅介護実習は新書式を採用している。現在実習中の留学生の実習日誌を見ると、観察、考察を受けて細かく書いているという印象がある。記入に2時間を要している。

○中嶋教員より、以下の補足説明が行われた。

- ・ミャンマーの留学生によると、携帯に文章を入力してから翻訳し、それを清書として書き写すという手間をかけていて、使っている言葉と使わない方がよい言葉の分別が難しいということだった。利用者とのコミュニケーションにおいても言葉の選択に課題があったようである。中国の留学生の文章には独特の言い回しや硬い表現、なぐり書きが見られるが、利用者とのスムーズな会話が日誌にも反映されている。言葉の問題が日誌記入時間の差につながると感じた。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
□新カリキュラムの実践について具体的な考えはあるか。	□現場に出て業務の意味や根拠を考えるときに学校での学びがつながっていくと思う。
□「生活支援技術Ⅲ」にベッド上での洗髪が入っているが、実際の現場のベッド上で洗髪をすることはあるか。	□訪問介護では一連のケアの中で洗髪することがある。
□基本知識と技術を持った上で、それぞれの環境、状況、背景の中で応用する力が実践力だと思う。学びの段階ではイメージを組み立てるのは難しい。	□今年度の「介護過程」では演習をしてから講義を聞くとわかりやすいという学生からの声があった。講義科目も技術に結びつけられるような内容にしていかなければならないと思う。

<p>□区の委託事業としてケアマネジャー相談室を始めたところ、パワハラや労基法違反の相談が目立った。自分の身は自分で守ることと労働法規的なことにも触れていただきたい。コミュニケーションに関しては、机上の学びでない実践的なコミュニケーションのとり方を授業の一つに入れられるとよいと思う。</p>	<p>□実践力はまさに日本の教育の課題となっている。学力試験的なものが苦手でも人柄がよく自分なりに工夫している人は、高い評価を得ていると思う。そこをどう伸ばしていくかということが肝になる。専門学校では職業人としての実践力を発揮できる人材を育てたい。</p>
<p>□資料 5-2 の領域「介護」(案)の多職種連携の実践に、「サービス担当者との会議やケースカンファレンス等を通して多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ対象とする」とある。来年度から実習での会議等の体験をお願いしたい。地域における生活支援の実践においては、デイサービスの体験で地域連携がよく見えるのではないかとご意見をいただき、今年度の第1段階の実習の中で全員がデイサービスを体験できてよかったと思っている。デイサービス以外についても地域連携が見えるという点で、ご助言をいただきたい。</p>	<p>□地域連携は地域包括支援センターの役割の一つである。</p>
<p>□実習先で地域包括支援センターを併設しているところが2カ所あるので、そういったところに実習をお願いしたい。</p> <p>□「生活支援」の実習として、地域密着型の小規模多機能施設は有効か。</p>	<p>□地域活動をしている居宅介護支援事業所での実習や活動への参加は一つの方法である。認知症カフェ等の見学もいいと思う。</p> <p>□昨年度7月に、総合演習の時間内で2年生を対象に地域包括ケアシステムを見学、1年生は実習前に高齢者センターの介護予防の拠点を見学している。</p>
<p>□地域包括支援センターを「生活支援」の実習の足がかりとする。</p>	<p>□地域共生社会の布石として、地域包括支援センターがコミュニティワークを行っている。総合事業は、介護保険の施設が行う部分は介護保険に入るが、地域における生活支援の主眼は、自治会、町会、シニアクラブ等とのつながりである。</p>
<p>□ミャンマーの留学生にとって日誌が相当なストレスで、意欲を損なうぐらいの負担になっているかもしれない。</p> <p>□韓国の留学生の日誌はレベルが高い。このレベルを求めていくのか。</p>	<p>□目標は高く持ちたい。実習Ⅱ・Ⅲでは個別ケアの基礎を学んでいくので、観察と知識の統合が問われる。現場では記録が簡略化されていると思うが、教育の現場では旧書式と新書式が併存する形をとっていききたい。</p>

	<p>□学びの場としては高いレベルを求めていった方がいいと思う。将来指導者的な立場に立つ観点からすれば、基本的なところを押さえておかないと、コミュニティがある中では低いレベルへ流れていってしまうと思う。</p>
--	---

以上